

# 西宮ロット・エ・ガロンヌ交流市民の会

2015年7月15日 Vol.131 発行者:森田正樹 編集:広報部

〒662-0911 西宮市池田町 11-1 フレンテ西宮 4F 秘書課内

TEL:0798-35-3468 FAX:0798-32-8673 Mail:info@nleg.net

## マリー・フィトンさん近況

マリー・フィトンさんからの情報をお知らせ致します。

1. アジャン近郊の、BOE という町に、日本庭園を建設する案が出ており、既に会合を持たれているようです。現地の新聞記事のリンクをお知らせします。マリーさんによると、記事ではアジャン市と西宮市の関係が紹介されているそうです。(会報4ページに現地新聞HPの一部を紹介してます。)

<http://www.sudouest.fr/2015/06/13/un-jardin-japonais-est-en-projet-1950411-3632.php>

2. 10月の旅行について、四国の祖谷をボンネットバスで回ることも考えているようで、情報があれば教えて欲しいとのこと。そして、東京についても詳しく調べておられるようで、詳細については、また連絡下さるそうです。

また、今回はお一人ではなく、西宮の友の会マスコット MIYATINE を連れてこられるそうです。

「西宮友の会」のブログをご参照下さい。<http://amisdenishinomiya.free.fr/blog/>

3. 西宮ユネスコ協会の世界児童画展参加に、BOE 市の学校も興味を持っているそうなので、今週学校関係者と会われるそうです。

NLeG の皆さんによろしくお伝え下さいとのことでした。([秘書課]岡林京子)



## 谷口さん、森田さんがTV・ラジオに出演

○7月11日、谷口さんのお店(フリアンド)の前を通りかかったとき、次のようなフリアンドさんの掲示が眼にとまりました。(鈴木英夫)

- ・放映は7月13日(月)、8チャンネル:番組名”ゆうがたLIVEワンダー”です。
- ・番組時間を調べたところ当日 ① 15:50~17:00 ② 17:00~19:00

○「阪神沿線の文化110年」展の紹介番組がベイコムで放送中です。(森田正樹)

- ・第2回目は7月28日まで(毎日15時から16時)
- ・第3回目は8月3日から9日まで(毎日15時から16時)

なお、インターネット配信もあり、「じもテレ」<http://jimotv.jp/>でも見られます。

## 新広報部員さんに期待!

初めてメールさせていただきます緒方亜衣と申します。

今までにメールを送っていただいていたかと思いますが、実は、迷惑メールに振り分けられてしまい、気にしていたのですがタイミングが合わず広報部からのメールを一度も見ることができませんでした。

皆様のメールアドレスもわからず、広報の担当者さまもわからず、戸惑っていました。

今回、佐藤様から池田様のメールアドレスを教えて頂きメール致しました。

「レイアウトの件」ですが、お手伝い出来ることは致しますが、スケジュールや内容がわからないため 詳しく教えて頂きたいと思っております。

お手数ですが、よろしくお願い致します。(6/26 緒方亜衣さんからのメール)



pixta.jp - 2521050

緒方さま、メールありがとうございました。夏が過ぎればご協力いただけるとお聞きし、嬉しく思っています。詳しくは、メールさせていただきますが、よろしくお願いいたします。(池田壺和)

前回のミレーの「種まく人」に共鳴して、おなじ画題に取り組んだ画家が、フィンセント・ファン・ゴッホ (Vincent van Gogh 1853.3.30~1890.7.29) です。

ゴッホはミレーの「種まく人」に強い羨望の念を抱いていて、そのエッチング作品を所蔵していました。ゴッホは手紙の中でこのような言葉を残しています。「種まく人を描くことは昔からの僕の念願だった。古い願いはいつも成就できるとは限らないけど、僕にはまだできることがある。ミレーが残した『種まく人』には残念ながら色彩が無い。僕は大きな画面に色彩で種まく人を描こうと思っている。」

南仏アルル滞在期 (1888年2月~1889年5月)の1888年秋頃に描かれた作品は、過剰とも思えるほどの刺激的な色彩があふれています。画面上部のほぼ中央には、強烈な光を放ちながら地平線へと沈みゆく太陽が描かれ、遠景の畑が黄金色に輝いています。中景には陽光の黄金と対比する青色の陰影のある畑に、種をまく農夫がミレーと同じ姿で逆光につつまれて描かれ、力強い生命力が感じられます。



ゴッホ《種まく人》1888年 64x80.5cm  
クレラー=ミュラー国立美術館蔵

さてこの強烈な黄色を見て思い出すのは、そうヒマワリです。

ゴッホの「花瓶に挿された向日葵をモチーフとした油彩画」は、7点が制作され6点が現存しています。そして全てアルル滞在中の作品です。

	向日葵の本数	制作時期	所蔵
1	3本	1888年8月	個人
2	5本	〃	消失
3	12本	〃	ノイエ・ピナコテー
4	15本	〃	ロンドン・ナショナル・ギャラリー
5	15本	1888年12月	東郷青児記念損保ジャパン美術館
6	15本	1889年1月	ゴッホ美術館
7	12本	〃	フィラデルフィア美術館

私個人は、ロンドンで見た4番目の向日葵が一番好きです (6点全てを見たわけではありませんが)、と言うより初めてゴッホの凄さを実感しました。多くの作品が並んでいるなかで一番強烈に目に飛び込んできて、生命そのものが輝いていると感じました。

5番目のものは、1987年に安田海上火災 (現損保ジャパン) が58億円で購入しました。新宿の高層ビルの42階で、ゴーギャン、セザンヌとともに分厚いガラスの向こうに常設展示されています。

2番目の作品は、1919年に大阪の実業家山本願彌太が7万フラン (2万円) で購入しました。白樺派美術館の設立を考えていた武者小路実篤の依頼によるもので、東京と大阪で展覧会が開催され好評でした。しかし、残念なことに1945年8月6日の芦屋市空襲により消失してしまいました。

大塚国際美術館がこの通称「芦屋のヒマワリ」を2014年に原寸大の陶板で再現し展示しています。

向日葵の8作目があったとする藤原伊織のハードボイルド「ひまわりの祝祭」という名作もありますが、古くはカーク・ダグラス主演の映画「炎の人ゴッホ」、滝沢修の名演で有名な劇団民藝の「炎の人」がありました。それほど『ゴッホ - 向日葵』は日本人に愛されているということなのでしょう。



最近話題のテレビドラマ「天皇の料理番」をご覧になっていた皆さんも多いと思います。実在した天皇の料理番(宮内省大膳職司厨長)こと秋山徳蔵さんの生涯のドラマです。

明治時代に福井の裕福な家の次男に生まれ、ヤンチャ三昧で職を転々とし、遂には「西洋料理人」という天職と出会い、当時日本にはまだ数人しかいなかったフランスの一流レストランでの留学修行を経て、「天皇の料理番」として招聘され凱旋帰国し、宮中の料理長として活躍されるまで登りつめます。

フランスロケもあったこのドラマは、TBS テレビ 60 周年記念であり、文部科学省「トビタテ！留学 JAPAN」と厚生労働省「職業能力開発施策」とのタイアップ企画でもあります。NLeG 会員の皆さんは、特にフランス留学のシーンは興味深かったのではないのでしょうか。



約 100 年前にパリへ料理留学というのは、現地で未開人扱いされるだろうし、文化も全然違うし、今のようパソコンも無いので情報も簡単に取れないから、大変だったろうな、とすぐに想像できます。物語でも苦労の留学生活スタートでしたが、徐々に努力と卓越した才能と実力が認められ、当時の最高峰レストランで日本人初のフランス料理組合員になり、フランスの現地料理人達から一目置かれて活躍していく過程が面白かったです。

フランスのよいところの一つ、実力あれば、何人であれ認められることは、昔から変わらないフランスの気質なのだなあと嬉しく思いました。

私がフランスで生活していた時も、数少ない日本人の先輩から

「何か一つ、教養でも、成績でも、音楽でも、料理でもなんでも、他人より抜きん出るといものがあれば、フランス人は認めてくれますよ。」とアドバイスされ、実際その通りだったことを思い出しました。

フランスのちょっとした生活作法や文化をリスペクトする姿勢を見せると、相手も日本人である私たちの異国文化を尊重してくれる、というのもこのドラマに通ずるところです。

(ドラマの中での話で実体験としてあったかどうかは知りませんが、)佐藤健さん大熱演の秋山が、留学時代、フランス料理に赤ワインを合わせて恐る恐る飲むという習慣を真似ていくと、呼応するかのようになり現地フランス人も日本人料理人秋山の提案する食材を試していくというドラマの話は、時代や国が変われど人の心の動きは同じだと感じました。きっと実際似たような体験談は沢山あったことでしょう。

フランス留学シーンでは、やはりフランス語の発音に耳を傾けてしまいます。

白人俳優が話しているも

「この人はフランス人じゃないな、この人はフランス語が母国語の人だね」

などと楽しんで息子と話しながら見ていました。

そこで思わず息子と顔を見合わせてビックリしたのが、在仏日本人大使を演じた郷ひろみさんのフラン

ス語です。

話慣れた感じではないものの、発音は丁寧に忠実に再現されたもので、半端ない努力の跡が感じられました。

後で調べてみると、フランス語の発音を完璧にすべく 1 ヶ月半もの間、朝から晩までフランス語漬けの日々を過ごされていたそうです。

何歳になっても努力する姿は素直に感動を呼びます。

異文化を勉強し受け入れることで、自らの文化と融合し更に高めることは大切です。

宮中の晩餐会シーンで、海外からの来賓をおもてなしするためのコース料理の締めが、秋山考案の富士山型の抹茶アイスだったのですが、100年経った今もこのデザートは宮中の名物として、昨年度のオバマ米国大統領も、今年度宮中晩餐会デビューされた秋篠宮佳子さまも食されています。

現在の私たちも、市民レベルの国際交流を通じて、この「富士山型抹茶アイス」的なものの種をまいていきたいものです。

我が家でも、小さなグローバル化を試みるべく、留学生を少しの間受け入れてみようかと思いました。



Les Amis de Nishinomiya lors du festival Alliance Japon. © (BOE の町の新聞 HP の一部をコピーしてみました)

'association Les Amis de Nishinomiya œuvre pour que se tissent des liens entre la France et le Japon, et plus particulièrement une relation de jumelage entre la ville de Nishinomiya, située non loin d'Osaka, et celle d'Agen, depuis 1992. Mais ses actions dans l'agglomération plus largement se développent.

C'était notamment le cas, le week-end dernier, lors du festival Alliance Japon. Animateurs d'un stand qui présentait leur association, Les Amis de Nishinomiya ont noué des liens cette fois avec la Ville de Boé et vont mettre sur pied un nouveau projet : un jardin japonais.